

## 1.B.2.c.Venting.i 通気弁（石油産業）（Venting—Oil）（NMVOC）

### 1. 排出・吸収源の概要

#### 1.1 排出・吸収源の対象及び温室効果ガス排出メカニズム

油田及びガス田では、原油・天然ガスの生産時に発生する余剰ガスの一部を大気に放出して処分するために、通気弁が設置されている。当該分野では原油生産時の通気弁における NMVOC の排出を扱う。

#### 1.2 排出・吸収トレンド及びその要因

原油生産時の通気弁からの NMVOC 排出量は、原油生産量の推移に連動しており、2000 年代後半から原油生産量の減少に伴い、排出量も減少トレンドとなっている。

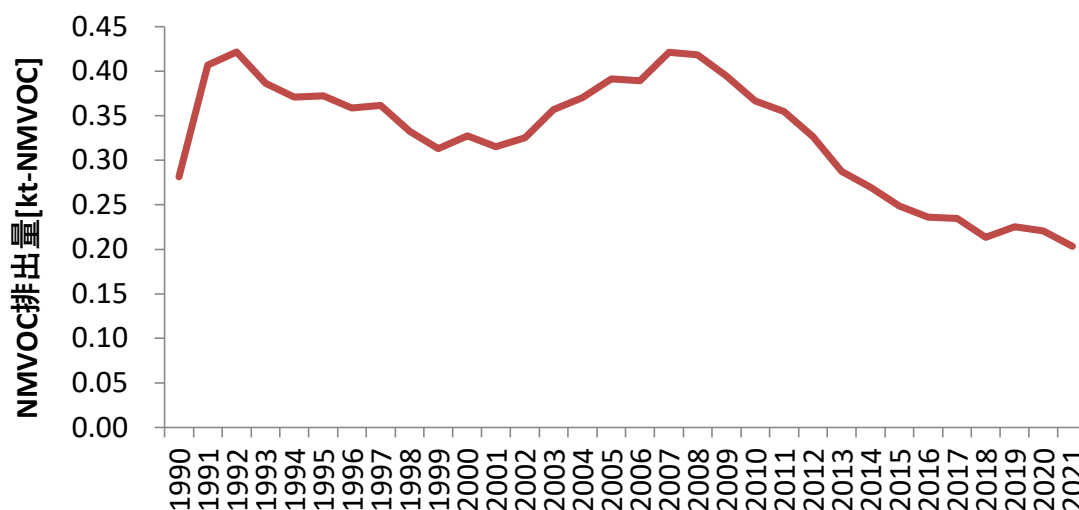


図 1 原油生産時の通気弁からの NMVOC 排出量の推移

### 2. 排出・吸収量算定方法

#### 2.1 排出・吸収量算定式

原油生産量に 2006 年 IPCC ガイドラインにおける NMVOC のデフォルト排出係数を乗じて排出量を算定する。

$$E = AD \times EF$$

$E$  : 油田の通気弁における NMVOC 排出量 [t-NMVOC]

$AD$  : 原油生産量 [千 kL]

$EF$  : 原油生産当たりの排出係数 [t-NMVOC/千 kL]

## 2.2 排出係数

排出係数については、2006年 IPCC ガイドラインに示されている油田の通気弁における排出係数デフォルト値 ( $4.3 \times 10^{-4}$  [kt-NMVOC/千 kL]) を用いる。

## 2.3 活動量

活動量には、経済産業省の「エネルギー生産・需給統計年報」、「資源・エネルギー統計年報」及び「生産動態統計年報 資源・窯業・建材統計編」に示された我が国における原油生産量を使用する。

表 1 活動量（原油生産量）の推移

	単位	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
原油生産量	千m <sup>3</sup>	655	946	981	899	863	866	834	840	773	728
	単位	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
原油生産量	千m <sup>3</sup>	761	734	756	830	860	911	905	979	973	917
	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
原油生産量	千m <sup>3</sup>	853	824	759	668	626	578	549	546	496	524
	単位	2020	2021								
原油生産量	千m <sup>3</sup>	513	473								

## 3. 算定方法の時系列変更・改善経緯

表 2 初期割当量報告書（2006年提出）以降の算定方法等の改訂経緯概要

	初期割当量報告書 (2006年提出)	2017年提出
排出・吸収量 算定式	未推計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規に排出量を計上。</li> <li>・ 2006年 IPCC ガイドラインの Tier1 の算定式を適用。</li> </ul>
排出係数	—	—
活動量	—	—

### (1) 初期割当量報告書における算定方法

当該分野の新しい NMVOC のデフォルト排出係数が示された 2006年 IPCC ガイドラインの適用前で、未計上の排出源となっていた。

### (2) 2017年提出インベントリにおける算定方法

#### 1) 排出・吸収量算定式

2006年 IPCC ガイドラインに記載の算定方法及びデフォルトの排出係数に基づいて算定（現行インベントリと同様。）。

2) 排出係数

現行インベントリと同様。

3) 活動量

現行インベントリと同様。